



久之浜 防災緑地づくり

5号

かわら版

平成26年 3月10日

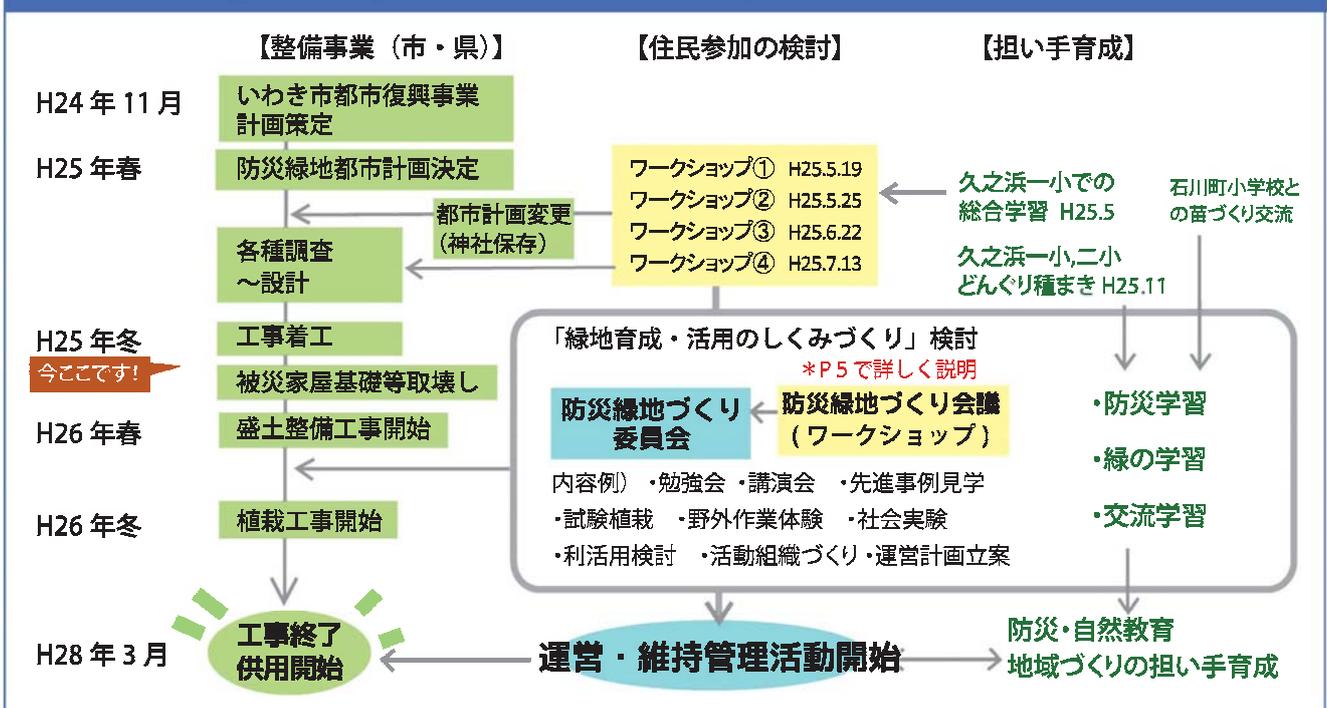
久之浜地区防災緑地の「緑地育成活用のしくみづくり」の検討が始まりました！

福島県いわき建設事務所では、昨年4回にわたり開催した防災緑地の整備プランを考えるワークショップの成果をもとに設計案を作成し、工事を進めてまいります。一方で、防災緑地はこれから何十年にわたり地域の方と一緒に育み活用していく必要があります。そこで地域の方々に親しまれ、地域とともに成長していく防災緑地としていくため、「防災緑地づくり会議（ワークショップ）」を開催し、防災緑地の活用運営について考えています。さる2月23日には、第5回の防災緑地づくり会議が開催されました。このかわら版では、その時の内容を中心にお伝えします。

2/23 防災緑地づくり会議の様子



久之浜地区防災緑地づくり・全体スケジュール



久之浜地区防災緑地設計ベース案

(仮) みんなの交流ゾーン

久之浜地区のコミュニティの場であり、地区内外の人々が集い交流する明るいゾーン

1号緑地

憩いの小広場

久之浜のまちと港をつなぐポケットパーク

2号緑地

健康づくり広場

日常的に家族や友人と健康づくりを行う場

3号緑地

子どもの学びの広場

子どもたちの環境学習のための空間

4号緑地

久之浜集いの広場

水と緑に囲まれた空間で人々が自由に集い交流する場

5号緑地(北)

記憶の伝承広場

秋葉神社を核として鎮魂の思いと次世代へ震災の記憶を伝えるメモリアルな場

(仮) 記憶の伝承ゾーン

震災の記憶を次世代へと継承するモニュメント的な施設となる秋葉神社を中心としたゾーン

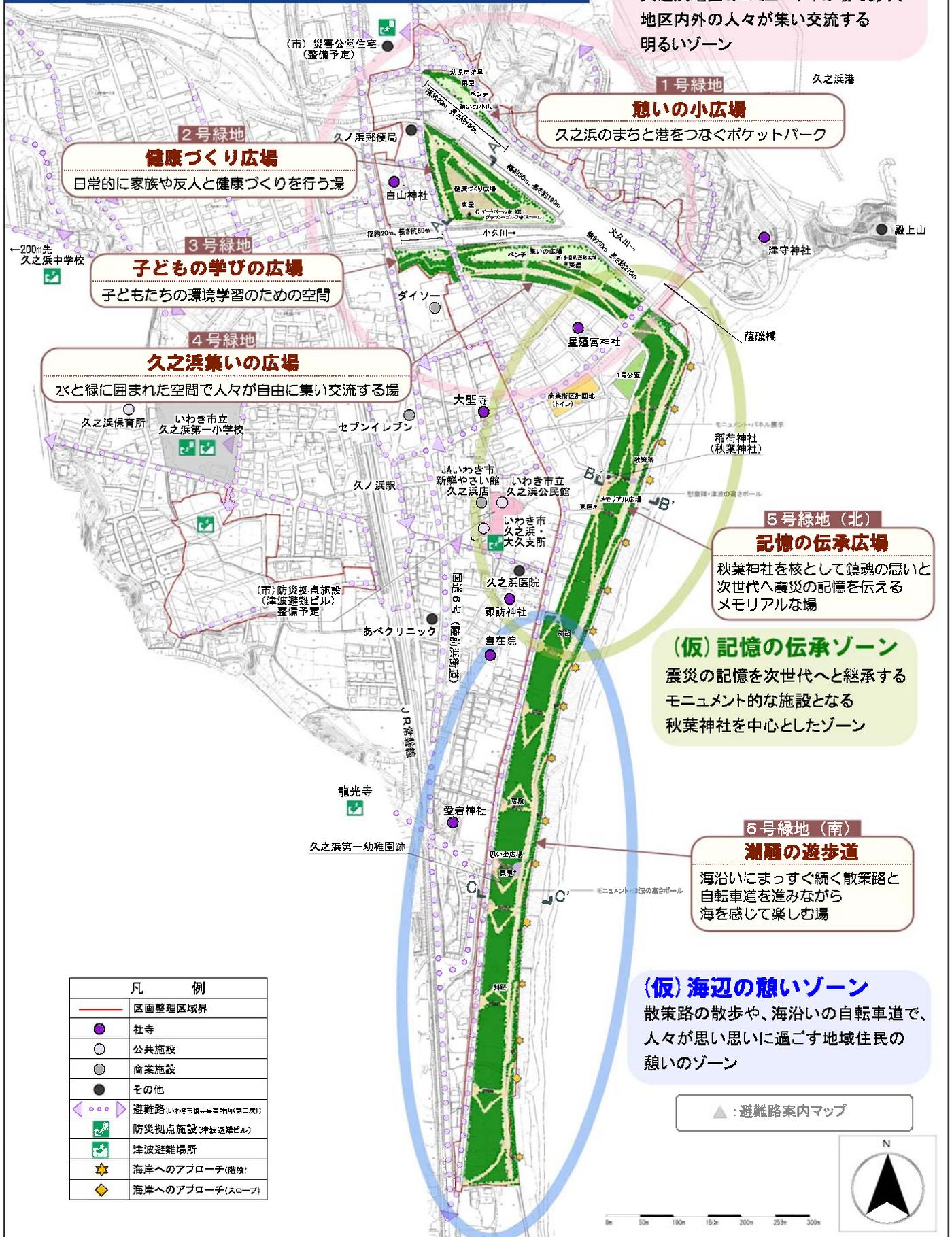
5号緑地(南)

潮風の遊歩道

海沿いにまっすぐ続く散策路と自転車道を進みながら海を感じて楽しむ場

(仮) 海辺の憩いゾーン

散策路の散歩や、海沿いの自転車道で、人々が思い思いに過ごす地域住民の憩いのゾーン



凡 例	
	区画整理区域界
	社寺
	公共施設
	商業施設
	その他
	避難路(いわき市復興事業計画(第二次))
	防災拠点施設(津波避難ビル)
	津波避難場所
	海岸へのアプローチ(階段)
	海岸へのアプローチ(スロープ)

▲: 避難路案内マップ



0m 50m 100m 150m 200m 250m 300m

■久之浜地区防災緑地 【設計ベース案】 内容説明

*このベース図は、これまでの4回のワークショップの意見を踏まえてとりまとめたものです。

🌿 理念(テーマ)

これまで出された様々な意見の根底にあるこの5つの「地域の思い」を、久之浜防災緑地の整備に反映させる。

<久之浜防災緑地の理念(テーマ)>

- 日常も非常時も安心な防災機能を備える ... 防
- 震災の記憶を伝承する ... 記
- 鎮魂の森をつくる ... 鎮
- 99/100年の日常の利用を考える ... 日
- 久之浜の地域らしさを伝える ... 久

🌿 設計ベース案の内容

	緑地	整備テーマ	整備方針	整備内容(主な施設・機能)	理念(テーマ)
「まち」と の連携	1	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・まち全体での利用と管理を考慮 ・避難路やまちの道路に直結したエントランスと散策路 ・まち全体で防災スピーカーの適正な設置位置を検討 	防 日
共通	全体	適正な 施設配置	安心・安全のための施設を適正な位置に整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・盛土天端及び樹林内、防潮堤側への散策路 ・照明灯、足元灯 ・避難路案内マップ 	防 日
みんなの交流ゾーン	1号	憩いの小広場	久之浜のまちと港をつなぐポケットパークとする	<ul style="list-style-type: none"> ・久之浜港へ向かう休憩スポット(東屋、ベンチの設置) ・背後の裏山と一体的な植栽 ・港や海をイメージする施設デザイン 	日 久
	2号	健康づくり 広場	日常的に家族や友人と健康づくりを行う場とする	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな軽スポーツの場 ・地域らしい樹種による樹林、木陰となる高木植栽 ・遊水機能のための広場空間 	日 久
	3号	子どもの学び の広場	子どもたちの環境学習のための空間とする	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が日常的に利用する環境学習のための場、子どもたちのための緑地空間 ・地域の植生 ・観察用の散策路 	日 久
	4号	久之浜集いの 広場	水と緑に囲まれた空間で人々が自由に集い交流する場とする	<ul style="list-style-type: none"> ・2号緑地と連携し、にぎわいを創出するイベント広場 ・デイキャンプ、臨時駐車場などに利用できる多目的広場 ・親子や子供がボール遊びのできる芝生広場 ・地域らしい花木植栽、木陰になる高木植栽 ・港や海をイメージする施設デザイン 	防 日 久
記憶の伝承ゾーン	5号(北)	記憶の伝承 広場	秋葉神社を核として鎮魂の思いと次世代へ震災の記憶を伝えるメモリアルな場とする	<ul style="list-style-type: none"> ・海側はクロマツ中心、まち側は地域らしい樹種による樹林 ・秋葉神社に海に向かう新たな参道 ・神社周辺の「メモリアル広場」に、久之浜らしいデザインによる慰霊碑、震災の記録を刻むモニュメントなど ・天端、緑地内の散策路、海とつながる散策路(園路) ・管理用通路を利用した自転車道 	防 記 鎮 日 久
海辺の憩いゾーン	5号(南)	潮騒の遊歩道	海沿いにまっすぐ続く散策路と自転車道を進みながら海を感じて楽しむ場とする	<ul style="list-style-type: none"> ・海側はクロマツ中心、まち側は地域らしい樹種による樹林 ・久之浜第一幼稚園跡地の「思い出広場」に、子供たちの幼稚園での思い出を残すメモリアルな施設 ・天端、緑地内の散策路、海とつながる散策路(園路) ・管理用通路を利用した自転車道 	防 記 日 久

今後の進め方について、地区のみなさんに個別にご意見を伺いました。

約 10 名の方へのインタビューのまとめ

みんなの力で魅力的な緑地を育て、活性化につなげたい



久之浜全体のまちづくりにつなげたい／行政主導でなく、住民が最初から関わることで自分たちの緑地であるという気持ちが育つ。「ゼロからスタート」にしたい／平成 14 年のグランドデザインでも工場や公共事業誘致より自然環境保全による活性化を目指した／防災緑地を通じて隣町の人も楽しめる町に／緑地を活かし観光による雇用を生み出したい／被災者が戻れるために何をすべきかが問われている

地域の植生を復活させるのが基本（クロマツ+ツツブキ、ハマエンドウなど下草）

収益性のある緑地にしたい／魅力ある事業をおこし緑地育成資金を捻出する／雇用の生まれる防災緑地に／漁業の朝市を開催する

まちぐるみで緑地育成を／緑地の育成を担う組織をつくる／100 年先も考え、子どもたちを緑地育成の主体に／地元だけでは良い計画にはならない。外部の専門家が必要／福島出身の企業の協力を得る／取組みは全世帯に告知し合意形成を大事に

その他／防犯灯の経費はまかなえない／気軽に寄れるような拠点があると良い／津波の到達点に植樹をして後世に伝える

久之浜は産業的な活力がある／久之浜は、市内でも 3 番目の水揚げの港／「はまかせ商店街」は中小機構の支援で全国で最初の復興商店街／農家の耕地面積が小さいが様々な農作物を作り、それを総菜等に加工して販売している

多様な地域組織がある／「地域づくり協議会」は誰でも入れるまちづくり組織（会員 270 名）／漁師の正会員は 77 名。準会員が 31 名／海岸清掃活動の会員は 250 人／商工会青年部は 13 人／婦人会は会員 104 名／ソフトボールチームは大人 12 チーム、子ども 13 チーム。かつて市内で連覇した実績がある

伝えたいふるさとの姿／お祭りを守り、気軽に声をかけあえる“ふるさと”の安心感／水産業を通じた一体感、人付き合いが深いこと／震災前は消費者と漁師との交流のために「港祭」を開催していた。いわき北部で一番人気の 1 万人規模のイベントだった／昔は子ども神輿だけで 8 つ出た時期もあった／かつて、堤防の内側には漁師が住み、朝起きたら堤防に上がって海を見る習慣があった／子どもの頃の遊び場だった砂浜がなくなってしまった。昔は 130m くらいあった

子ども達と一緒に育てる森。外部からの支援も期待したい。

子ども達・学校もふるさとの復興を願い、活動している／第一小学校再開時には子ども達が親を説得しほぼ全員帰って来た／総合学習では地域と連携し「これからの久之浜」について提案した／学校の授業で防災緑地の植栽の苗を育てている

震災以降、外部の支援が広がっている／以前から交流があった石川町のボランティアが支援に来てくれている／東京からの「サポートチーム」は、子どもたちを見守りたいと、定期的に子どもたちと遊んでくれる／小学校への外部人材からの協力の申し出は年間 500 人くらいある／いわき市内の「結」、イベントの際に情報発信する「絆 JAPAN」、その他「FKP」など、様々なグループが支援してくれている／3.11 の一周忌に海岸に花を飾った。全国にもネットで呼びかけ、150 人くらい集まった

久之浜は、こんなにいいところ。みんなのふるさと。



このインタビューの成果をふまえて、右ページのような、今後の進め方の提案をまとめました。



28年春までを目標に、こんな取り組みがスタートしました！

久之浜地区防災緑地「緑地育成・活用のしくみづくり」検討の流れ（案）

「緑地設計ベース案」(2、3ページ)を、多くの人の参加協力で実現するための話し合いが始まっています。

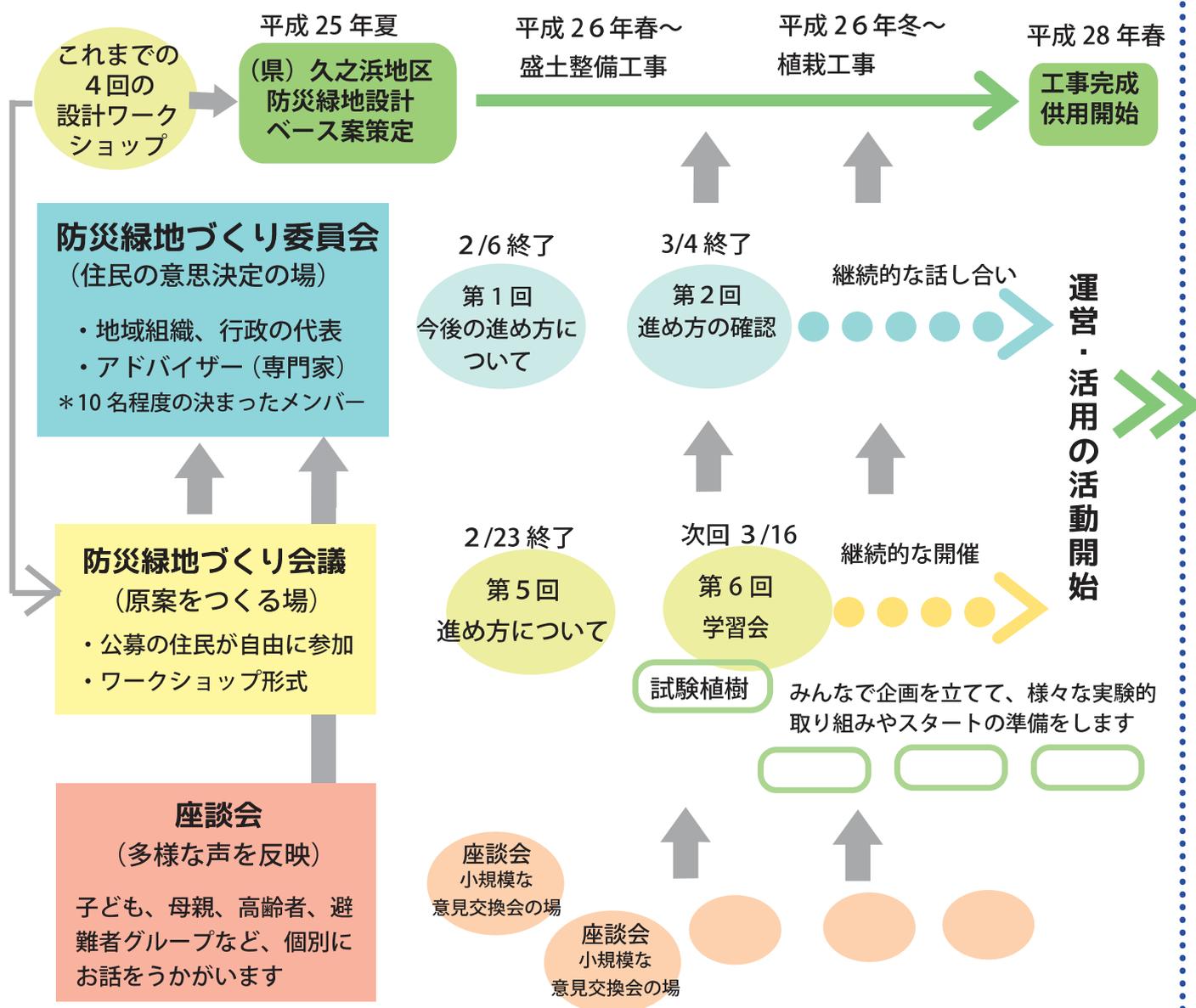
緑地の活用方法や担い手づくり、植生やデザインなどの話し合いを進め、緑地の完成までに、緑地の保全育成や活用にかかわる地域と行政と応援者の協力体制をつくりあげてをめざしましょう！

■ 検討の中で考えていくこと（目標）

- ・ 緑地の植生のあり方
(生態系/活用/景観)
- ・ 豊かで多様な活動
- ・ 育成手法と担い手
- ・ 収益確保のアイデア
- ・ 外部人材の協力

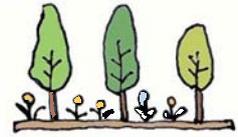


■ 検討の体制とスケジュール



第5回 久之浜地区防災緑地づくり会議の報告

日時：平成26年2月23日（日） 14：30～17：00
場所：久之浜・大久支所 参加者：27名、傍聴者2名



テーマ：今後の防災緑地プロジェクトを組み立てる

当日は、まずはじめに主催者の福島県いわき建設事務所から開催趣旨説明と検討の進め方や体制、これまでの経過とその成果としての「久之浜地区防災緑地設計ベース案」の説明がありました。その後、5グループに分かれて1時間ほど本日のテーマについて意見を出し合いました。

みなさん、たいへん活発に意見を述べられ、発表の内容もたいへん充実していました。最後にアドバイザーの先生からコメントをいただき、閉会しました。



Aグループ

(参加者6名)



(植生、デザイン等について)

- ・防災機能の高い緑地にするため、まず震災のメカニズムを知る事が大事。
- ・人が集まるような演出デザイン、樹種など選びたい。
- ・緑地に来る手段に応じて、必要な設備などを考える。
- ・植生について、いろいろな人の意見を聞く（住民アンケートの実施等）、他の事例を見学する。
- ・管理費を試算して、資金集めの方法を考える。
- ・緑地の景観デザインを考える

(体制づくり・人の輪づくり)

- ・管理主体の形成が必要（NPOの立ち上げ、ノウハウのある人材募集、地元の植木職人の協力など）。
- ・各々の区に育樹を割り当て、責任を持って管理する。
- ・子ども達と親に呼びかけ、ゴミ拾いや植樹等緑化に関わるイベントを開催して、大切さを伝える。
- ・人が集まるイベントとして、ここでできるスポーツイベントを考えて、完成前にも実施してみたい。
- ・久之浜以外の人にも広く協力を求める。たとえば全国的な植樹祭を誘致して、人を集めてはどうか。

Bグループ

(参加者4名)



「地域活性化につながる緑地にしたい」

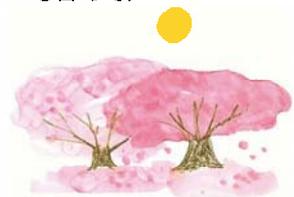
(植生、デザイン等について)

- ・松以外の樹種も研究し、名所となる緑にしたい。（桜の並木など）
- ・実のなる木を植えてその実から特産品を販売し、収益をあげる。（例／ワイン、栗ごはんなど）
- ・「道の駅」「浜の駅」をつくってそれを販売すれば、地域の働く場を提供できる。
- ・維持管理のかからない樹木を検討する。
- ・防犯面から樹種の研究。（見通しの良い林など）

(企業、ボランティアの力を引き寄せる)

- ・外部の力を生かすアイデアを出し合う。（例／テーマに合わせた企業広告、「企業の森」を募集する、ボランティア活動を誘致する（プロも含めて）

- ・久之浜は津波、原発の被害を今でも受けているので、もっとフォローがあってもいいのではないか。



Cグループ (参加者5名)

「次世代を担う10代、20代の意見を聞いていきたい。(まちづくり全体について) 次の世代が夢を描けるようなまちづくりをしたい。」



(子どもの自然体験、遊びの場として)

- ・次世代を担う10代、20代の意見を聞いていきたい。
- ・森づくりを学校の総合学習として組み立ててみる。
- ・親子で楽しく遊べる場として計画したい。
- ・大久川も含めて、ネイチャーウォッチングのフィールドとして活用していきたい。海浜公園自然の家との連携なども考えたい。

(人の輪、管理運営について)

- ・苗木のスポンサーを募る。
- ・花木、実の成る木を植えて、四季楽しめる緑地にする。
- ・区画ごとに違うグループがかかわり、それぞれの発想で楽しい緑地ができると盛り上がるのではないかと。
- ・メンテナンスが楽な緑地、管理手法を考えていく。
- ・運営組織の立ち上げを具体的に進めながら、事業計画として考える必要がある。
- ・食の屋台、カフェテラス運営など収益性ある事業計画を立て、施設を整備してけるとよい。計画中の商業施設も一緒に、活性化に向け相乗効果を考えたい。

*Dグループはありません。



Eグループ

(参加者4名)

- ・まずは専門家の話を聞いたり、他の事例を見たりして情報収集を行う。
- ・かつては漁り火が見えた海。星空を大事にするような照明を考えたい。

(植栽・樹種について)

- ・3・4号緑地/落葉、枯れた木などの処理や活用、ピオトープの整備、トイレの必要性について考える。
- ・5号緑地について/クロマツを良好に育成させる方法、ニセアカシアの除去について考える。

(運営について)

- ・住民・ボランティア等誰が運営を行うか話し合う。
- ・緑地にお客さんを呼ぶための方法を話し合う。
- ・運営資金の確保の方法を話し合う。

Fグループ (参加者7名)

(進め方について)

- ・会議に出ない人にも事業の工程や主旨、何がどこまで決まっているのかいないのか明確に伝えて欲しい。(情報を共有するための学習の場が必要)
- ・防災緑地のあり方、植生・生態系の基礎的知識を学ぶ。
- ・防災緑地の景観を考える。
- ・植樹の樹種・樹齢を考える。

(プロジェクトを具体化する方法を考える)

- ・事務局の常駐体制が必要で、その人件費、運営費をまかなうには収益性ある事業をする必要がある。
- ・民だけで収益をあげるのは難しいと思うので、官民協力での運営を考える。
- ・事務局が中心となって工程表をつくり、具体的に決めたことが推進できるようにする必要がある。
- ・人材確保の方法としては、65歳以上の人のボランティアのしくみづくりを考える。

最後に アドバイザーのコメント

角館先生(照明デザイナー、景観・まちづくり) 個人的にどのような場所にしていきたいかという思いがもっと出てくると良い。

黒沢先生(福島大学教授、生物多様性) ニセアカシアには早めの対策を行うこと、一方で貴重な植物は自然に生えてくるのを待つことが重要。

根本先生(福島大学客員研究員、いわき市の植物) 造成地に貴重な植物が生えてくるなどの面白い発見を大切にしていきたい。

木田先生(樹木医、地域植栽) ここで出た提案は、県の土木部だけでは実現できないことも多いので行政も縦割りでない組織づくりが必要。

廣瀬先生(東北芸術工科大学大学院准教授、風景・風土、生態学的環境デザイン) 地域にないものを持ってくるのではなく、確固たる久之浜の地域性を作り上げて防災緑地の実現に活かしていかれるとよい。

久之浜地区防災緑地「緑地育成活用のしくみづくり」

第6回 防災緑地づくり会議 開催のご案内

第5回防災緑地づくり会議では、これまでの成果を共有しつつながら今後のプロジェクトをみんなで組み立てる作業を行いました。今後もできるだけ多くの方に参加いただきながら、「久之浜らしい森づくり」に向けて、植生のあり方や育成活用組織、資金調達方法などをテーマに話し合っていきます。今回は、防災緑地の植生のあり方をテーマにし、防災緑地の現場に試験的に植栽を行い、今後の活動のイメージを膨らませる取り組みを行います。



日時：3月16日（日曜日）

内容：「防災緑地の植栽を実際に植えてみる」

第1部 13：00～ 植栽体験 現地集合（秋葉神社前）

防災緑地で植えるクロマツの苗木を植栽する作業を、防災緑地予定地の秋葉神社前で行います。道具は事務局が用意しますが、作業を行いやすいように汚れても良い動きやすい格好でお越し下さい。また屋外での作業になりますので、防寒対策を十分に行ってください。

移植ごて（小型シャベル）をお持ちの方は、当日ご持参ください。

第2部 14：00～ 第6回防災緑地づくり会議 久之浜・大久支所

- ① これまでの成果の共有
- ② 「久之浜らしい森」を考える ～生物多様性に学ぶ～
- ③ グループワーク（意見交換）

参加自由です！
みなさんで、
おいでください！



ご意見をお聞かせください！

～座談会、個別訪問に伺います

今回の防災緑地づくり事業では、より多くの皆様の声をお聞きしながら、より良い防災緑地づくりを進めていくために、ざっくばらんにご意見を伺う場「座談会」を設けています。

「防災緑地づくり会議」に出したくても時間が合わない方、外出が難しいけれど提案されたい方がいらっしゃいましたら、こちらから伺います。お一人でも、グループでも結ぶです。



編集後記：

防災緑地づくり会議の運営をするお手伝いするスタッフチーム（コンサルタント）が、このかわら版を編集いたします。できるだけみなさんにわかりやすく、またできるだけ多くのご意見をご紹介しますようがんばります。どうぞよろしくお願いいたします。

【お問い合わせ先】

福島県いわき建設事務所
担当：橋本、菅野
電話番号：0246-35-6075